

DNAマーカーを利用した ダイズ茎疫病抵抗性系統の選抜

1 DNAマーカーとは？

品種間の特性の違い(例:病気に強い,弱い)を区別するために利用するDNA塩基配列の違いをDNAマーカー(図1)といいます。幼苗のDNAマーカー(図3)を調べることで病気に対して強いか、弱いかを容易に判定できるため、効率的な抵抗性品種の育成に役立ちます。



図2：茎疫病による丹波黒の立枯症状

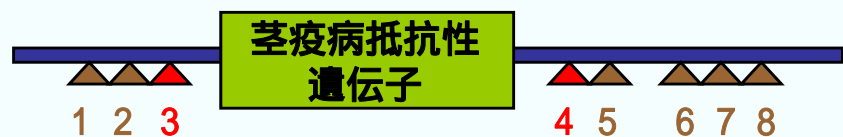


図1：DNAマーカーと茎疫病抵抗性遺伝子との関係
遺伝子に近いマーカー(3,4)ほど選抜の信頼性が高いです。

2 DNAマーカーによる茎疫病抵抗性系統の選抜

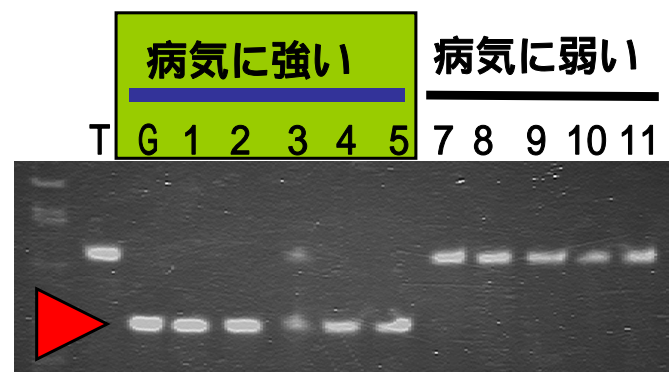
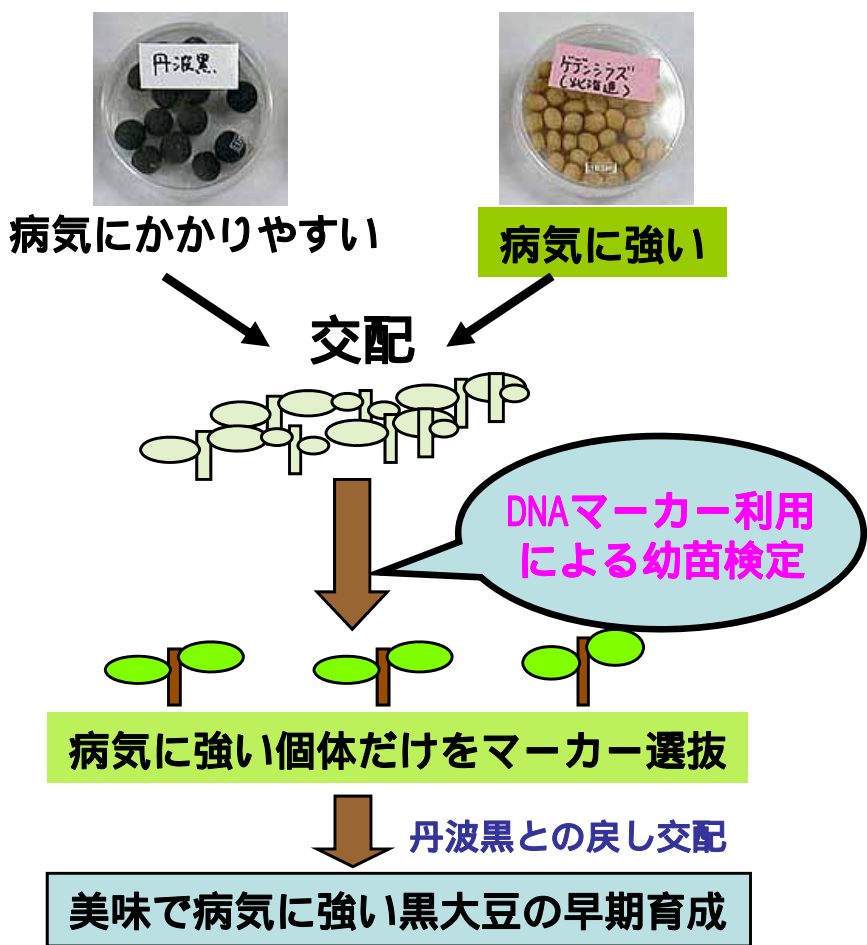


図3：DNAマーカーによる個体選抜
1~5の個体はマーカー(赤印)が見られるため病気に強いと判断できます。
T: 丹波黒, G: ゲデンシラス1号
1~11: 交配個体群

